

料理で暑い夏を乗り切る



J A 筑紫機械利用組合連絡協議会は、秋の農繁期に備えてオペレーター講習会を開きました。福岡県農業機械士会の中野隆夫会長を講師に迎え、農作業事故防止に向けた講義と実演を行いました。研修会には、協議会メンバーと行政、農事組合法人・機械利用組合等組合員42人が参加。農作業死亡事故の現状や、コンバインの安全な操作方法などを学びました。

夏芽アスパラ圃場巡回



J A 筑紫アスパラガス部会は、筑紫野地区と那珂川地区で圃場巡回を行いました。

夏芽アスパラガスの最盛期を迎え、より高品質なアスパラガスの生産に取り組むために、栽培管理や病害虫の発生状況などを確認。部会員、福岡普及指導センター、J A 農業振興課職員ら16人が参加し、互いの栽培方法などを熱心に情報交換しました。参加した部会員は「お互いの状況を確認でき、とても参考になった。これから終盤までしっかり管理して、より高品質なアスパラガスを出荷していきたい」と意気込みました。

今年の春芽アスパラガスは生育が伸び悩みましたが、夏芽アスパラガスはおおむね順調。害虫防除にも力を入れています。収穫は10月頃までを予定。

料理で暑い夏を乗り切る



J A 筑紫女性部は、平成29年度夏料理講習を管内9カ所で行いました。

今回のメニューは「トマトとたこの炊き込みご飯」や「白身魚の柑橘エスカベッシュ」など4品。夏野菜をたくさん使った夏にぴったりのメニューです。出来上がった料理を試食した部員からは「味がさっぱりとしていて、とても美味しかったです。この料理を家庭でも作って、暑い夏を乗り切りたいです」と笑顔で話していました。

子ども食堂に役立てて



ＪＡ筑紫は7月25日、大野城市のNPO法人チャイルドケアセンターへ教育ローン成約件数に応じた寄付（ＪＡ農産物直売所ゆめ畑の農畜産物10万円相当）をしました。

ＪＡは、教育ローンの成約件数に応じた寄付を8年間続けています。今回の寄付は、平成28年9月1日から平成29年4月28日までの「めざましごはん教育ローンキャンペーン」の成約99件分。

同法人は、子育てのための情報とネットワークづくりをサポートする団体。ＪＡ管内4市1町に15カ所ある「子ども食堂」の支援を行っています。大谷代表理事は「このような寄付は大変ありがたいです」と話しました。

白水組合長は「こども食堂の活動は、地域のコミュニティの役割があります。ぜひ事業を続けて頂きたいです」と笑顔で話しました。

部会員の健康状態を確認



ＪＡ筑紫は、ＪＡ無人ヘリ防除作業部会の部会員を対象に「農薬中毒検査」を無料で行いました。農薬中毒になると、知覚・運動神経まひなどの症状が発生するため、部会員の血液に農薬の成分が残留していないか検査し、健康状態を確認しました。

営農生活部農産課の担当職員は、「部会員の健康に注意を払い、元気に活動してもらうため、今後も継続して行っていきます」と話していました。

デイサービスセンターへ生活資材を寄付



ＪＡ筑紫女性部は、女性部が中心となり未使用のタオルやシャンプーなどの生活資材を集め、デイサービスセンターＪＡ筑紫アネシスへ寄付しました。7月21日に贈呈式が行われ、ＪＡ女性部を代表して瀬利かよこ副部長、古瀬富美子支店部長、砥綿信子支店部長、ＪＡ生活福祉課職員が参加。瀬利副部長から利用者へ集まった生活資材が手渡されました。

瀬利副部長は「女性部で集めました。お役に立てると嬉しいです」と挨拶。利用者は「とても感謝しています。大切に使いたいです」と話しました。

直売所でエコープ商品の試食販売会



ＪＡ筑紫女性部消費生活委員会は１８日、ＪＡ農産物直売所ゆめ畑太宰府店で、女性部がお勧めするエコープマーク品の試食販売会を行いました。

試食は、３種類のエコープマーク品を使った「ピーマンのしおふき昆布和え」や「フルーツゼリー」など約６０人分を準備。来店者は「今まで作ったことのないレシピがありました。ぜひ試してみたいです。」と笑顔で話していました。

直売所出荷者が講師に



ＪＡ筑紫は７月６日に、平成２９年度ゆめ畑販売スタッフ研修会を開きました。農産物直売所ゆめ畑４店舗の職員を対象に、直売所の実績と目標の共有や、店舗づくりに関する講演を行いました。

Ｊ藤井徳浩さん（５７）が「今後のゆめ畑に望むもの～固定客（リピーター）づくり～」の演題で講演を行いました。藤井さんはデパートに２０年以上勤め、さまざまな売り場や営業を担当した経験を持ち、現在は筑紫野市の農事組合法人西小田の組合長や、直売所出荷者として活躍しています。自身の経験や出荷者の立場から考える店舗作りについて、「店舗や職員の『らしさ』があれば、来店者はリピーターになると思います。笑顔を大切に接客してください」と話しました。

稲作の適正な栽培管理を呼びかけ



ＪＡ筑紫は、７月３日～２０日までの８日間、管内４市１町５７ヵ所で平成２９年度稲作中間管理講習会を行いました。適正な栽培管理を呼びかけ、高品質な米作りを目指します。

講習会は、水稻を栽培する組合員が対象。気象と生育状況を踏まえた栽培管理や、病虫害対策などをＪＡ営農生活部職員が説明。参加者は、真剣な表情で資料に目を通しながら、説明に耳を傾けました。圃場では、生育状況を見ながら中干しのタイミングや病虫害の発生状況などを確認しました。

営農生活部農産課の職員は「適正な管理を行い、高品質な米作りに努めてほしいです」と話しました。

第7期ちくし農業塾が開講しました



J A筑紫は7月1日、筑紫野市のJ A物流センターで第7期ちくし農業塾開講式を開きました。第7期生の7人は、塾で習得した知識や技術を活かし、J A直売所出荷者や生産部会の一員となる販売農家を目指します。約11ヶ月間に及ぶ受講がスタートしました。

式には、塾生や行政関係者、J A役職員など19人が参加。萩尾博常務から激励の言葉が送られ、塾生も1人1人抱負を述べました。講師を務める室園正敏さんは、「これから11カ月の間、楽しみながら学んでほしいです」と挨拶しました。

組合長が田植え授業を行いました



J A筑紫の白水清博組合長と青壮年部員、支店職員は、春日市立大谷小学校5年生の総合学習の一環で田植え授業の指導を行いました。この取り組みは、児童の食育活動をサポートする目的で10年以上続いているものです。

白水組合長は田植えの前に、苗の持ち方や植え方を教え、児童は田んぼに入り、綱につけられた印に沿って苗を丁寧に植えました。

学校は、学習の成果を高めるために、田植えなどの作業のたびに絵や作文を書き、生長を観察するように児童へ促しています。今後、この学習をもとに、農業の大変さや食の大切さの授業を行っていきます。植えた稲は、10月上旬に刈り取り、おにぎりにして味わう予定です。

白水組合長は「立派に稲が実るよう、大切に育ててほしいです。」と話しました。